

気仙医師会講演会抄録

てんかんと遠隔医療 ～新時代の幕開け～

東北大学大学院医学系研究科

てんかん学分野 教授 中 里 信 和 先生

医療では Quality (品質向上)、Cost (医療費抑制)、Access (医療の受けやすさ) の3つのうち、任意の2つの達成はできても3つは無理という「鉄の三角」という言葉がある。てんかん診療では外科治療を含む3次診療に関しては、Accessの問題が特に大きい。東北大学病院てんかん科では東日本大震災後に米国の支援を受け、気仙沼市立病院との間をテレビ会議システムで連結し2012年に遠隔てんかん外来を開始した。現制度ではオンラインのみでの初診は禁止されているが、Doctor to (Doctor and Patient)方式のため、あくまで気仙沼市立病院内での医療として処理されている。本年5月より、これを全国に拡大すべく、自由診療によるオンライン・セカンドオピニオンを開始した。患者は全国から、パソコンやスマホで診察を受けることができるが、かかりつけ医との診療情報のやりとりでのセカンドオピニオンは、厚労省への確認をとって実施している。インター

ネット技術の進歩に対して、制度が追いついていないのが現状であるが、オンライン診療のノウハウを積みながら、地域医療にとってもメリットがあるような制度を構築していく一助になればと願っている。